

「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」  
(千葉県総合計画)

令和元年度実施状況【抜粋版】



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

令和2年11月  
千葉県

## ■「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」令和元年度実施状況【抜粋版】

### (1) 基本目標Ⅰ 安全で豊かな暮らしの実現

I-1-①	自助・共助・公助が一体となった地域防災力の向上	・・・	1
I-1-②	災害に強いまちづくりの推進	・・・	1
I-1-③	危機管理対策の推進	・・・	1
I-2-①	犯罪の起こりにくい、安全で安心して暮らせる社会の構築	・・・	2
I-2-②	交通安全県ちばの確立	・・・	2
I-2-③	消費生活の安定と向上	・・・	2
I-3-①	増大する医療ニーズに対応した安心で質の高い医療サービスの提供	・・・	3
I-3-②	生涯を通じた健康づくりの推進	・・・	3
I-3-③	高齢者が個性豊かに生き生きと、安心して暮らし続けられる地域社会の実現	・・・	3
I-3-④	障害のある人が地域でその人らしく暮らせる共生社会の構築	・・・	3
I-3-⑤	互いに支え合い、安心して心豊かに暮らせる地域社会づくりの推進	・・・	4
I-4-①	ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティの醸成	・・・	4
I-4-②	「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の推進	・・・	4
I-5-①	地球温暖化対策の推進	・・・	4
I-5-②	循環型社会の構築	・・・	5
I-5-③	豊かな自然環境と良好な大気・水環境の保全	・・・	5
I-5-④	野生生物の保護と適正管理	・・・	5

### (2) 基本目標Ⅱ 千葉の未来を担う子どもの育成

Ⅱ-1-①	安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	・・・	6
Ⅱ-1-②	地域による子育て支援の充実	・・・	6
Ⅱ-1-③	子どもの健やかな成長と自立	・・・	6
Ⅱ-2-①	志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材の育成	・・・	7
Ⅱ-2-②	ちばのポテンシャルを生かした教育立県の土台づくり	・・・	7
Ⅱ-2-③	教育の原点としての家庭の力の向上と人づくりのための連携	・・・	7
Ⅱ-2-④	多様化する青少年問題への取組	・・・	7

### (3) 基本目標Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備

Ⅲ-1-①	千葉の「宝」を生かした観光立県の推進と移住・定住の促進	・・・	8
Ⅲ-1-②	国際都市として発展するCHIBAづくり	・・・	8
Ⅲ-2-①	県経済の活力を生み出す産業の育成と企業立地の促進	・・・	8
Ⅲ-2-②	中小企業・小規模事業者の経営基盤強化	・・・	9
Ⅲ-2-③	地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進	・・・	9
Ⅲ-3-①	女性の活躍推進	・・・	9
Ⅲ-3-②	雇用対策の推進と産業人材の育成	・・・	10
Ⅲ-4-①	産地の戦略的な産地強化と高収益型農林水産業への転換	・・・	10
Ⅲ-4-②	緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進	・・・	10
Ⅲ-5-①	交流基盤の強化	・・・	11
Ⅲ-5-②	成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化	・・・	11
Ⅲ-5-③	社会資本の充実と適正な維持管理	・・・	11
Ⅲ-5-④	人と環境にやさしい住まい・まちづくりの推進	・・・	11

本書は、令和元年度における実施状況の抜粋版です。

総合計画の内容や実施状況の詳細につきましては、県ホームページをご覧ください。

・千葉県総合計画「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/sougou/sinkeikaku.html>

・「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」の政策評価

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/hyouka/shinkoukanri/index5.html>

また、県庁本庁舎 2 階県政情報コーナーや各地域振興事務所、県図書館等において閲覧することができます。

## (1) 基本目標 I 安全で豊かなくらしの実現

### I-1-①：自助・共助・公助が一体となった地域防災力の向上

市町村や防災関係機関、民間事業者等の対応能力向上や連携強化、県民の防災意識の向上を図るため、九都県市合同防災訓練や帰宅困難者等対策訓練を実施しました。

また、千葉県地域防災力向上総合支援補助金により、市町村等が取り組む、自主防災組織等の育成・活性化や避難環境の整備等の事業について、計 42 市町村、2 一部事業組合、102 事業に対して支援を行いました。



九都県市合同防災訓練（千葉県会場）  
（避難所運営訓練）

### I-1-②：災害に強いまちづくりの推進

災害時の道路ネットワーク確保のため、橋梁の耐震補強 2 橋（運河大橋、富士見橋）を実施しているほか、津波対策として河川堤防のかさ上げを 1.0km、海岸堤防のかさ上げを 2.3km 実施しました。

また、地震や豪雨などによる二次被害を防止するため、宅地や建築物の危険度を判定する者を養成する講習会を開催し、被災宅地危険度判定士 51 人及び被災建築物応急危険度判定士 120 人を養成しました。



運河大橋（流山市）

### I-1-③：危機管理対策の推進

健康危機についての知識向上や連携強化等のため、各健康福祉センター（13 か所）において、地域健康危機管理推進会議等の関係者との会議、研修会等を開催しました。

また、新型コロナウイルス感染症について、対策本部を設置し、対策に取り組んでいます。

大気・公共用水域・海水浴場・水道水等の放射性物質モニタリングを定期的実施して結果を公表しました。県産の農林水産物についても、放射性物質のモニタリング検査を実施し、基準値を超えた物が流通しないようにするとともに、結果を速やかにホームページで公表することで風評被害の軽減に努めました。



新型インフルエンザ等  
対策病院実動訓練



## I-2-①：犯罪の起こりにくい、安全で安心して暮らせる社会の構築

地域の防犯活動の核となる防犯ボックスについては、市川市と木更津市が新たに設置する3か所に対して補助を行い、市町村が設置する防犯ボックスは12か所となりました。

また、令和元年房総半島台風後には、移動交番車を被災地に集中的かつ弾力的に活用するなど、地域の実情に応じて効果的な防犯活動を行いました。



被災地派遣中の移動交番車

## I-2-②：交通安全県ちばの確立

安全で快適な交通環境を整備するため、道路管理者や県警・関係団体等が協力して実施する交通事故多発箇所の共同現地診断を38回実施し、診断結果に基づいた整備・改善等の対策の促進により、交通事故の抑止に努めました。

また、自転車利用者の交通ルールのマナー向上等を図るため、本県独自の自転車安全利用ルール「ちばサイクルルール」の教育用リーフレットを作成し、小・中学校や交通安全教室等で配布しました。



共同現地診断の様子

## I-2-③：消費生活の安定と向上

消費者が正しい知識を身に付け、消費者被害を未然に防止することができるよう、自立支援講座（57回、4,226人）等の各種講座を開催するなど、様々な世代に対して消費者教育を行うとともに、消費生活相談窓口の広報・啓発を進めました。

令和元年房総半島台風後には、災害に便乗した悪質商法などによる消費者被害の防止を図るため、県ホームページやチラシの作成・送付などを通じて、注意喚起と相談窓口の周知を行いました。

また、食品営業施設の監視指導や食品検査の実施、食品等事業者向けの HACCP<sup>※</sup>セミナー&相談会（9回、93事業者）等を開催するとともに、農薬安全使用研修会の開催により農薬の適正使用を推進しました。

※原材料の入荷から製造、出荷までのいくつもの工程の中で、特に重要な工程を管理し、安全で衛生的な食品を製造するための衛生管理手法の一つ。



県消費者センターで電話相談を受ける相談員



### I-3-①：増大する医療ニーズに対応した安心で質の高い医療サービスの提供

がんセンターの新棟建設工事、佐原病院の本館耐震改修工事、(仮称)千葉県総合救急災害医療センターの実施設計等、県立病院の施設整備を行いました。

また、医師・看護職員の増加に向けた取組として、医学生、看護学生を対象とした修学資金貸付の実施、看護学校等の定員増への支援等を行うとともに、千葉県医師キャリアアップ・就職支援センターにおいて臨床研修等の情報提供や医療技術研修を行いました。



がんセンター

### I-3-②：生涯を通じた健康づくりの推進

生活習慣病の予防を目的に、健康ちば推進県民大会を開催し、健康づくりに関する県民の意識を高め、栄養・睡眠等に関する知識の普及を図りました。(参加者 170 名)

また、がん予防や早期発見、検診の重要性を啓発するとともに、がん検診の受診率向上を図るため、9 月のがん征圧月間、10 月の乳がん月間を中心に、がん予防展やピンクリボンキャンペーン等を実施しました。



がん予防展の様子

### I-3-③：高齢者が個性豊かに生き生きと、安心して暮らし続けられる地域社会の実現

高齢者の孤立化防止のため、千葉県が独自に実施している「ちば SSK プロジェクト(しない、させない、孤立化!）」について、高齢者の見守りや雇用等により取組に協力をしていただいている店舗の登録件数が、624 店舗(令和元年度)に増加しました。

また、認知症の早期診断と適切な対応に向けて、認知症サポート医の養成、かかりつけ医及び病院勤務の医療従事者等を対象とした研修を実施しました。



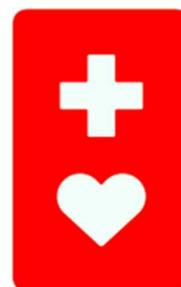
「ちば SSK プロジェクト等に関する協定」締結式の様子



### I-3-④：障害のある人が地域でその人らしく暮らせる共生社会の構築

ヘルプマークを普及・啓発するための取組として、ストラップ型ヘルプマークやヘルプカード、チラシ、ポスター等を作成し、県内各所へ配布しました。

また、令和元年度より発達障害者地域支援マネジャーを配置し、市町村に向けた地域体制整備に関する研修を実施するとともに、事業所支援として困難事例等に関する相談受付・助言を行いました。



ヘルプマーク



### I-3-⑤：互いに支え合い、安心して心豊かに暮らせる地域社会づくりの推進

民間団体等からの企画提案により県民のボランティア活動への参加のきっかけづくりを行う「ボランティア参加促進事業」において、採択した2事業で実施した様々なイベントに延べ217名の参加がありました。

また、生涯学習情報の提供を充実させるため、県内の生涯学習情報を提供する「ちばりすネット」(URL:<https://www.skplaza.pref.chiba.lg.jp/clis-net/>)に、8,347件の情報を登録しました。



ボランティア参加促進事業  
浴衣染めボランティア講習の様子

### I-4-①：ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティーの醸成

東京オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成のため、「千葉・県民音楽祭」「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』PR事業」「ちばアート祭」を実施しました。

また、平成29年度半ばから、千葉県も beyond2020プログラム\*の認証主体となり、令和元年度は117件の認証を行いました。

\*地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、共生社会や国際化に繋がるレガシー創出に資する取組を認証し、オールジャパンで統一感をもって日本全国へ展開していく文化プログラム。



「ちばアート祭2019」の様子

### I-4-②：「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の推進

10月のスポーツ推進月間を中心に、総合型スポーツクラブと小学校が連携した「スポーツで元気いっぱい！親子体験イベント」を実施し、生涯スポーツの推進を図りました。

また、オリンピック・パラリンピックを題材とし、その価値や共生社会、国際理解等について学習している「オリパラ教育実施校」について、全ての県内公立学校が認証を受けました。



障害者スポーツ体験  
(車いすフェンシング)の様子

### I-5-①：地球温暖化対策の推進

家庭への再生可能エネルギー設備等の導入を促進するため、市町村と連携し太陽光発電設備等に対する補助を行ったほか、家庭や事業者向けに省エネルギーを推進するキャンペーンやセミナーを実施しました。

また、市民活動団体等が開催する環境学習関連講座への講師派遣(延べ51件)やインターネットを利用した環境学習動画の配信(視聴回数4,718回)等を通じて、環境学習の機会の提供を行いました。



住宅用太陽光発電設備



### I-5-②：循環型社会の構築

レジ袋や食品の食べ残しの削減等に向けたPRを行うとともに、各種イベント時にリーフレットやエコバッグを配布するなど、循環型社会についての理解を広めるための啓発を行いました。

また、民間警備会社も活用し、24時間・365日体制で監視パトロールを行うとともに、県民等からの通報を受け付ける産廃・残土110番を設置し、産業廃棄物の不法投棄等の早期発見、早期対応に努めました。また、積極的な取締りを実施した結果、産業廃棄物の不法投棄事犯等について、40事件・48人を検挙しました。



3Rの推進のため取組を進めている環境にやさしいライフスタイル「ちばエコスタイル」のイメージ

### I-5-③：豊かな自然環境と良好な大気・水環境の保全

自然公園等において、自然保護指導員による巡視等の実施により、自然環境・景観等の保護を図るとともに、令和元年房総半島台風等による倒木や土砂崩落の復旧工事を行いました。

大気常時監視測定局において、オキシダント（光化学スモッグの原因物質）やPM2.5等の大気環境の常時監視を行い、光化学スモッグ注意報等発令時には、市町村等を通じた広報等により、注意を呼びかけました。

良好な水環境を保全するため、河川・湖沼・海域などの監視を継続して行うとともに、水質汚濁防止法における立入検査を行うなど、工場・事業場排水の汚濁物質の削減対策に努めました。また、生活排水対策として、市町村が行う合併処理浄化槽の設置促進事業に対し助成を行いました。



PM2.5の常時監視測定局  
(成田奈土測定局)

### I-5-④：野生動物の保護と適正管理

希少種保護のため、ミヤコタナゴ保護増殖事業、シャープゲンゴロウモドキとヒメコマツの保護回復事業の一環として、生息・生育環境の整備・保全等を進めました。

また、野生鳥獣による農作物等の被害対策のため、市町村が行う捕獲事業に対する支援、県による指定管理鳥獣（イノシシ・ニホンジカ）の捕獲などに関係機関・団体等と連携し取り組みました。

特定外来生物のカミツキガメについては、防除実施計画に基づき集中的な防除を実施し、その結果を基に生息数の推定を行った結果、令和元年度末の生息数は約6,500頭まで減少しました。



ミヤコタナゴ



## (2) 基本目標Ⅱ 千葉の未来を担う子どもの育成

### Ⅱ-1-①：安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり

子育て世代包括支援センターの設置を促進するためにアドバイザーの派遣を行い、設置主体である市町村の課題解消に努めるとともに、専門職への研修を実施しました。

また、婚活、妊活、プレママ・パパ、育児の4つのライフステージにある県民に対し、県や市町村からの支援情報の提供や、健康・育児に関する相談受付などを行うスマートフォン用アプリ「ちば My Style Diary」を配信し、ダウンロード者数は、令和2年3月31日時点で21,683件となりました。



ちば My Style Diary

### Ⅱ-1-②：地域による子育て支援の充実

保育所等における待機児童の早期解消に向け、国の交付金や、県独自の賃貸物件を活用した保育所等の整備に係る補助金等を活用し、民間保育所等120施設の整備に対して助成しました。

また、「子育て応援！チーパス事業」の協賛店拡大のために各店舗への個別周知やホームページでのPRなどに取り組んだ結果、令和2年4月1日時点の協賛店舗数は8,587店舗となりました。



子育て家庭優待カード「チーパス」

### Ⅱ-1-③子どもの健やかな成長と自立

平成28年度の子育て支援法の改正により、市町村が整備に努めなければならないとされた、子どもや妊産婦を対象に専門的な相談等を行う「市町村子ども家庭総合支援拠点」について、市町村に設置を促した結果、新たに6市（八千代市、我孫子市、香取市、いすみ市、市原市、野田市）に設置され、計15箇所となりました。

また、家庭的養護の推進に向け、里親登録数の増加に向けた広報・イベントや研修等を実施し、里親登録数・委託数・里親委託率ともに増加しました。



児童家庭課作成広報啓発物品



## Ⅱ-2-①：志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材の育成

市町村立の小・中学校 190 校に学習サポーター（退職された先生や非常勤講師等の教職経験者等）を派遣し、放課後の補習等の学習支援、少人数指導や習熟度別指導等の授業支援、家庭学習の充実に向けた支援を行うなど、基礎学力の底上げや学習意欲向上を図りました。

また、生徒の外国語能力の向上と国際感覚の涵養を図るため、「語学指導等を行う外国青年招致事業」を活用し、新たに外国語指導助手(ALT)5 名を海外から招致しました。



ALTによる活動の様子

## Ⅱ-2-②：ちばのポテンシャルを生かした教育立県の土台づくり

個に応じたきめ細やかな指導等のため、小中学校に 198 名の非常勤講師を配置し、教科指導や生徒指導の充実を図りました。

また、臨床心理士等の専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを引き続き、県内全中学校、小学校 150 校、高等学校 80 校へ配置するとともに、スクールソーシャルワーカーについては、年度当初に前年度から 13 校増やし、さらに虐待に対応するための緊急対策として、9 月から教育事務所 5 か所に増員し、延べ 44 か所に配置しました。



相談室の様子

## Ⅱ-2-③：教育の原点としての家庭の力の向上と人づくりのための連携

学校・家庭・地域が連携した家庭教育を推進するため、家庭教育支援チームを設置する 7 市町村に対して財政支援を行い、子育てをする親の孤立化防止、個々の家庭への相談体制の充実を図りました。

また、経済的理由で修学が困難な生徒を支援するため、保護者が県内に在住する高校生等 1,057 人に「千葉県奨学資金」の貸付けを行いました。



睦沢町家庭教育支援チーム

## Ⅱ-2-④：多様化する青少年問題への取組

「千葉県子ども・若者総合相談センター（ライトハウスちば）」において、社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者に関する各種相談（1,850 件）に対応しました。

また、青少年のインターネットトラブルや、万引き等の非行を防止するため、非行被害防止等啓発リーフレットを、新中学生の保護者及び新高校生に加え、令和元年度からは小学 5 年生の保護者に対しても配布するとともに、インターネット適正利用啓発講演を小学校、中学校、高等学校等で計 39 回実施しました。



インターネット適正利用啓発講演



### (3) 基本目標Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備

#### Ⅲ-1-①：千葉の「宝」を生かした観光立県の推進と移住・定住の促進

観光施設や宿泊施設等の経営者・従業員を対象に海外観光ゲストへの「おもてなし力向上研修」を開催し、ICT 機器の紹介、障がい者・高齢者を含めたユニバーサル対応、実践的な接客語学について研修を行いました。

また、台湾・タイ王国・マレーシア・ベトナムで開催された旅行博への出展、現地商談会への参加等のほか、台湾・タイ王国・マレーシア・シンガポールのモニターと県内観光地を巡るツアーを実施するなど、さまざまな手法で県内観光地の PR に努めました。



マレーシアでの現地商談会

#### Ⅲ-1-②：国際都市として発展するCHIBAづくり

ドイツ・デュッセルドルフ市と姉妹提携合意文書に署名し、現地「日本デー」で本県の魅力を PR したほか、姉妹州の米国・ウィスコンシン州と友好都市の台湾・桃園市からそれぞれ州知事・市長が来県し知事を表敬訪問しました。

また、公益財団法人ちば国際コンベンションビューローを中心として、市町村や関係機関との連携により 86 件の国際会議の誘致に成功しました。



ドイツ・デュッセルドルフ「日本デー」千葉県ブースの様子

#### Ⅲ-2-①：県経済の活力を生み出す産業の育成と企業立地の促進

医工連携による製品開発を推進するため、県内ものづくり企業、医療現場及び製造販売業者の連携を支援するとともに、専門人材による企業の伴走支援や製品開発補助を実施した結果、10 件の共同開発が行われました。

また、県内への企業誘致を推進するため、国内外企業へのアンケートや電話相談等を踏まえ、知事によるトップセールスや 1,251 件の企業訪問、海外企業への誘致活動などを実施し、55 件の企業立地につながりました。

平成 29 年度に造成が完了した「茂原にいほる工業団地」と「袖ヶ浦椎の森工業団地」については、令和元年度末までにすべての区画の契約・引渡しが完了しました。



企業誘致セミナー



### Ⅲ-2-②：中小企業・小規模事業者の経営基盤強化

令和元年房総半島台風等による被害からの復旧及び新型コロナウイルス感染症の影響による中小企業の資金繰り支援として、金融機関や信用保証協会と連携し、過去最大の融資枠を継続しました。

厳しい経営環境にある中小企業や、起業者を積極的に支援するため、チャレンジ企業支援センター（(公財)千葉県産業振興センター内）では、経営や金融、起業などに関する3,477件の窓口相談、64社への専門家派遣を実施し、経営課題の解決や経営の向上をワンストップで支援しました。



Facebook による情報発信

### Ⅲ-2-③：地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進

「千葉県指定伝統的工芸品」として、令和元年度は新たに4件を指定し、また、初の都内における展示販売会の開催、県外で開催される展示会への参加支援、PR冊子の配布等を行いました。

チャレンジ企業支援センターで起業に関して282件の窓口相談を受けたほか、県内5地域で「ちば起業家交流会」（延べ580名参加）、幕張メッセで「起業家応援イベント」（延べ2,500名参加）を開催し、起業応援の機運を醸成しました。



千葉県指定伝統的工芸品展の様子

### Ⅲ-3-①：女性の活躍推進

民間企業等との連携による男女共同参画推進連携会議において、「男性と女性の意識差が顕著な家事ギャップについて、夫婦間のギャップを解消すること」をテーマにシンポジウムを開催するなど、合計4回の研修会等を実施し、延べ31団体、358名の参加がありました。

また、男女共同参画の視点をもって活躍する女性人材を養成することを目的に、起業・就労・就農等をテーマに、女性リーダー養成講座を合計5回実施し、延べ120名が参加しました。



女性リーダー養成講座  
(就農講座)の様子



### Ⅲ-3-②：雇用対策の推進と産業人材の育成

「ジョブカフェちば」では、併設のハローワークと連携して、若年求職者を対象とする個別相談や就職活動に役立つ各種セミナー、企業説明会、職業紹介などを実施しました。

また、県立高等技術専門校 6 校において、21 科の職業訓練を行い、就職率は 89.7%となりました。

さらに、離職者の再就職を支援するため、民間教育訓練機関を活用した職業訓練を 209 コース実施し、3,206 人の訓練生が受講し、就職率は 72.6%となりました。



就労支援（ジョブカフェちば）

### Ⅲ-4-①：産地の戦略的な競争力強化と高収益型農林水産業への転換

豊富な食材を揃えた千葉県フェアなどを国内はもとより、タイ、マレーシア、シンガポールにおいても開催し、国内外の販路拡大を図るとともに、農林漁業者等の 6 次産業化の取組を支援するなど、戦略的な販売促進を行いました。

また、効率的かつ安定的な農業経営が営めるよう担い手への農地集積を促進するとともに、新規就業促進や就業後の定着、経営感覚の育成などを目的とした各種研修・交流会等を実施しました。



シンガポールにおける  
千葉県フェア

### Ⅲ-4-②：緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進

グリーン・ブルーツーリズム<sup>※</sup>の推進を図るため、農泊・民泊及び農林漁業体験の受入拡大に向けた研修会等を実施するとともに、直売所フェアの開催や体験施設等の紹介パンフレットの更新を行いました。

また、野生鳥獣による農作物等の被害対策のため、捕獲事業や防護柵設置の助成を行うとともに、調査・研究や捕獲の担い手の養成・確保など関係機関・団体等と連携し取り組みました。

※農山漁村地域において、自然・文化・人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。



棚田での稲刈り体験



### Ⅲ-5-①：交流基盤の強化

圏央道、東関東自動車道館山線の4車線化、北千葉道路など高規格幹線道路等の整備を促進しました。

このうち、東関東自動車道館山線は、富津中央 IC—富津竹岡 IC間が令和2年3月6日に4車線運用を開始しました。また、圏央道は茂原長柄スマート ICが令和2年2月16日に開通しました。

千葉港ポートセミナーの開催などのポートセールスを実施し、港湾の利用促進や航路の誘致を図りました。



東関東自動車道館山線の4車線化

### Ⅲ-5-②：成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化

「成田財特法」の改正を受け、平成31年4月に「成田国際空港周辺地域整備計画」の変更手続きを行うとともに、同計画により空港周辺道路の整備を図りました。

国・県・地元市町及び空港会社の四者で、令和2年3月に「成田空港周辺の地域づくりに関する『実施プラン』」を策定しました。

また、成田空港を活用した千葉県経済の活性化に向け、経済団体・企業・自治体などで構成する「成田空港活用協議会」が実施する航空／空港関連企業との商談会などを支援しました。



提供：成田国際空港株式会社

成田国際空港

### Ⅲ-5-③：社会資本の適正な維持管理

県が保有する道路、道路橋、公園、下水道施設、住宅等について、公共施設分野ごとの整備方針を定めた長寿命化計画に基づき点検を実施し、点検結果を踏まえた長寿命化対策工事を実施しました。

また、県内の水道事業体の基幹管路（導水管・送水管・配水本管）において、管路の耐震化を促進する交付金を15事業体に対して交付し、県全体の管路の耐震化向上を図りました。



東屋の更新（蓮沼海浜公園）

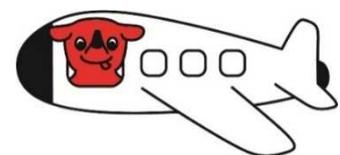
### Ⅲ-5-④：人と環境にやさしい住まい・まちづくりの推進

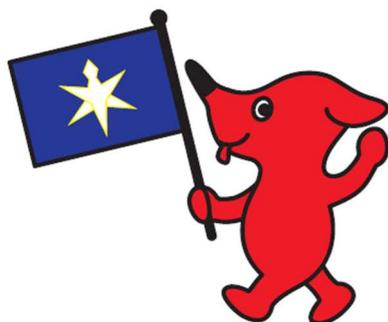
公共施設や商業施設等のバリアフリー情報を紹介する「ちばバリアフリーマップ」に新たな施設情報を掲載しました。

また、良好な景観形成を推進するため、景観セミナー等6回、市町村連絡会議1回などを開催し、県民や事業者の景観づくりへの参加促進や市町村への情報提供等に取り組みました。



景観セミナーの様子





千葉県 総合企画部 政策企画課 政策室  
〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号  
電話:043-223-2216 FAX:043-225-4467  
県 HP:<https://www.pref.chiba.lg.jp>